

子どもと女性の健康相談室

81



福島医大ふくしま子ども・女性医療支援センター長

高橋 俊文氏

不妊症は赤ちゃんをほを培養器内で培養する
 しいカップルが1年間にと、1日ごとに、2細胞、
 上妊娠しない状態です。4細胞、8細胞、桑実胚、
 原因は男女の両者に認め 胚盤胞へと成長します。
 られますが、原因不明が 多くの場合、8細胞以降
 ています。2020(令和2)年には、生殖補助
 医療により出生した赤ちゃんは全出生数の14分の
 1を占めています。生殖補助医療が行われた

生殖補助医療支える

当初は、医師が、卵の採
 取、精子の調整、体外受
 精、顕微授精、胚培養、
 胚凍結・融解、胚移植の
 全ての過程を行っていま
 した。しかし治療件数の
 増加に伴い、医師だけで
 は生殖補助医療の全てを
 行うのは困難になりました。
 そこで、医師の指示の
 下、精子・卵子を体外で
 操作し、生殖補助医療の
 過程をサポートする胚培
 養士が誕生しました。現
 在、胚培養士の国家資格
 はなく、学会等が独自の
 認定を行っています。さ
 らに、不妊症治療の保険
 診療が開始され、胚培養
 士の役割は重要性が増し
 ています。地方では慢性
 的な胚培養士不足が問題
 となっており、生殖補助
 医療の恩恵を受けられな
 い不妊症カップルが少な
 からず存在します。福島
 県でも独自に胚培養士の
 育成システムを立ち上げ
 する必要があります。

約20%を占めます。原因
 が明らか場合は、不妊
 原因に対する治療を行
 いますが、原因不明の不妊
 症には排卵誘発と人工授
 精による治療を6回程度
 行います。これらの治療
 で妊娠しないカップルに
 は、体外受精・胚移植治
 療が行われます。
 体外受精は卵子と精子
 を培養器の中で受精させ
 る治療です。受精卵(胚
 の胚を子宮内に戻します
 (胚移植)。体外受精の
 ほか、顕微授精、卵子・
 胚の凍結・融解などの不
 妊治療を「生殖補助医療」
 と呼びます。
 日本では1983(昭
 和58)年に体外受精・胚
 移植治療が成功し、その
 後、治療件数は右肩上が
 りに増加、年間で約45万
 件の治療が行われ、6万
 人以上の赤ちゃんが生ま

胚培養士の仕事



胚培養士による生殖補助医療の様子
(福島医大生殖医療センターで撮影)

次回は来年1月16日掲